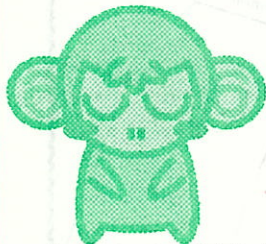


## 自然休養林情報

### 森林環境整備推進協力金のお知らせ

平成9年度にヤクスギランド及びび白  
谷雲水峡を利用された方々から、森  
ただりました。御協力金26,637円  
なま。用途は遊歩道の改良補修・管  
主の新しい清掃、協力を。森  
林教育等様々です。



今後とも御協力を

金こ直橋等円整  
力外、内吊築千の  
協野、新2設す。  
の林で屋8施ま  
こ備有業東2てい  
おるで山え3、し  
なよま治替7投を  
にれ轄架にを備を

今回の調査は、縄文杉と大株歩道沿いのヤクスギについて、前回は、縄文杉については、前面一帯の植生回復が見られないことの問題点がどこにあるのか、本調査のための事前調査として位置づけ、土壌と植生調査を実施し、併せて回復のための処置を示しました。大株歩道沿いのヤクスギについては、全体の把握に重点を置き、立木の被害状況

を調査する等、樹根の保護保全に視点をあてた調査となりました。この調査結果は、今後世界自然遺産地域の保護対策事業等を実施するうえでの貴重な資料として活用してまいります。この報告書の概要を裏面に



## 平成9年度 ヤクスギ樹勢回復に関する報告書完成

保全センターが、平成9年度屋久島自然遺産保全緊急対策事業で実施した、ヤクスギの樹勢調査をまとめた、「ヤクスギ樹勢回復に関する報告書」が完成したので報告します。

掲載しますので、さらに詳しく知りたい方は当保全センターまで照会下さい。

### （荒川地区）自然休養林 総会を開催

平成10年度屋久島自然休養林・荒川地区保護管理協議会総会と、ヤクスギランドを美しくする会総会が六月五日に開催されました。

協議会総会では、平成9年度に保全センターが実施した荒川橋（吊橋）の架替えや、荒川分かれに標示石を設置し自然休養林の利便を図った等の報告がありました。

また、平成10年度の事業計画では、公衆トイレ（森泉）のチップ制（維持管理費用の拠出協力）導入を試験的に実施することやヤクスギランド入口付近の駐車スペースを拡大すること等について、関係機関と調整しながら検討していくことになりました。

### 政府広報誌「フォート」 保全センターの活動紹介

六月二日から二五日にかけて、政府広報誌「フォート」の取材があり、同誌の八月十五日号に、森林環境保全センターの活動状況が取り上げられることになりました。今回は、国有林が果たして

### 屋久島の植物



ホルトノキ (ほるとのき科)

千葉県南部以西の暖帯から亜熱帯にかけて広く分布する常緑高木。葉柄は2cmと短く、葉身は倒披針形または長楕円状披針形で表面は深緑色であるが、一年中鮮やかな紅色をした老葉が一部にある。花期は六月七月で、多数の花をやや一方に偏ってつける。

### 保全センターの雨量観測データを活用

環境庁世界遺産センター主催による「屋久島における島嶼生態系の保全に関する調査研究」報告会が、六月一四日環境文化 研修センターで開催されました。

報告会では、屋久島の雨と土砂災害のテーマの中で、高知大学の江口先生が「屋久島にはなぜ雨が多いのか」を研究報告されました。この中で、島内における雨の地域差の特徴についての説明では、当保全センターが継

### お知らせ

#### 苔の橋 工事開始

ヤクスギランド内において、苔の橋の架替え工事を予定しています。工事期間中は、安全第一のため一部の歩道が通行止めになりますので御協力をお願いします。

#### ヤクスギランドパンフレットが新しくなりました

以前から「案内図が判りにくい」との意見がありましたので、四月から新たなパンフレットを作成し配布しています。



# ヤクスギ樹勢回復に関する調査報告

## 【縄文杉】

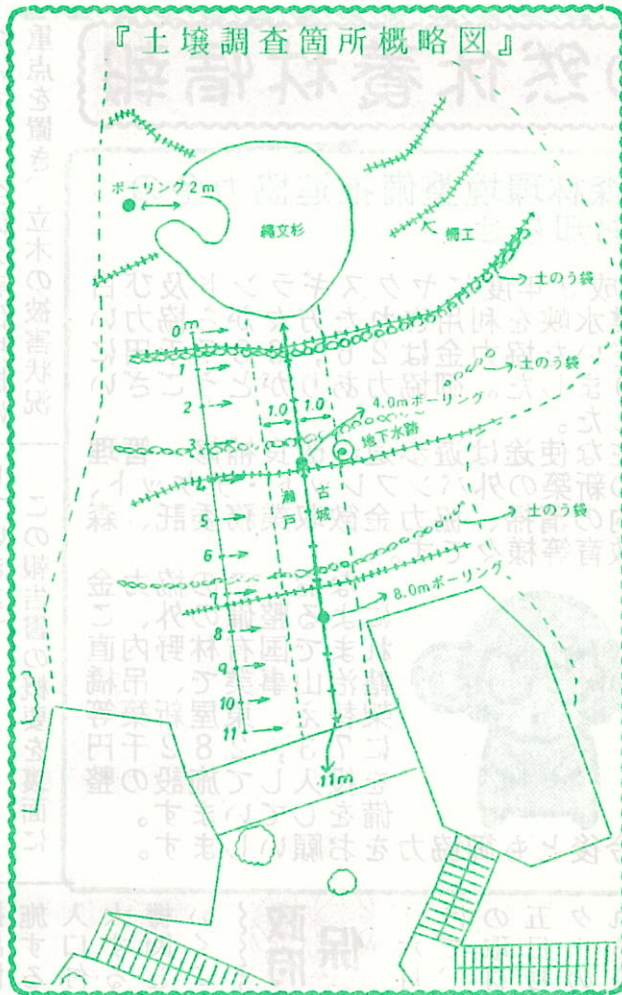
縄文杉の調査は、縄文杉周辺特に南側斜面の縄文杉から展望デッキ迄の間で、植生が回復していない区域の土壌と植生調査を実施し、併せて回復のための処置を示すことを目的に行った。

### 1 調査内容

- (1) 調査の方法  
縄文杉南側斜面で、縄文杉より4m及び8mの地点と、西側の2m地点でピンポイント土壌断面調査を実施。  
また、南側斜面に検縄を張り、左右1m間隔でプロットを設け植生調査を行った。
- (2) 調査項目  
土壌断面調査は(有効土層・土性、土色、構造、乾湿、PH、EC、CEC、腐植、硝酸態窒素、燐酸吸収係数、燐酸、加里、苦土、石灰)等について乾酸診断・分析を実施した。

### 2 考察

- (1) 縄文杉南側(裸地部分)の現状  
今回の調査対象地では、昭和59年~60年に保樹対策が講じられたが、現在では樹木はもろもろに枯死し、地被は木片等に類するものが少なく、スギ、ハイノキ、ユズリハ、ヒメヒサカキの稚樹が生存している状態である。また、表層土に多量の未分解性の有機物が残り、下層土の状態に変化し、どぶ臭い。
- (2) 環境改善の方策  
土壌調査の結果からは、土壌は良・やや不良と判定されるので、欠落しているA0層をいかに回復させるべく、その育成を活性化させるかかっている。  
① 下層土の未分解性有機物の改善(除去)と過湿を軽減するための排水対策。  
② A0層の十分な確保を計る。  
今回の調査でいえることは、A0層の欠落と過湿による土壌悪化が裸地化の原因になっているようで、早急な樹勢回復措置が急務である。



## 【大株歩道】

大株歩道沿いの調査は単木ごとの精査に主眼を置かず、全体の実体把握に重点を置き、立木の樹種、位置、衰退度、被害状況等を明確にし、併せて回復のための処置を示すことを目的に行った。

### 1 調査内容

- (1) 調査区域  
樹木医を含む5~6名で一個班を編制し、大株歩道入口から旧高塚小屋付近までの歩道から左右各々5m範囲の胸高直径50cm以上の立木を対象に調査を行った。
- (2) 調査項目  
単木ごとに写真撮影を行い樹冠、根、環境について4段階の評価を行った。  
樹冠は目視より行い、幹と根は目視と木ハンマーによる打撃音で空洞、腐朽等を推定した。環境については踏圧の大きさ、表土の流亡状態等を調査した。
- (3) 調査結果  
各項目ごとの樹勢衰退指数を単純合計し、良い、まあ良い、悪い、極めて悪いに区分すると、もつと「まあ良い」「極めて悪い」の順になり、「良い」は5.2%に留まった。全体的に樹勢の衰退が進行していることが、総合評価の中で「悪い」と「極めて悪い」に集中して表れる傾向が見られた。置ける場所の集約も、根の損傷防止処置が必要となる。また、歩道の復旧も、木道の必要箇所を特定し、編み込み等による土壌の回復措置が必要となる。また、歩道の復旧も、木道の必要箇所を特定し、編み込み等による土壌の回復措置が必要となる。

『大株歩道現況』

